

履修モデル作成者：高橋五月

テーマ：「持続可能性（サステイナビリティ）」の多様性を考える

関連の深いコース：各コースに共通するテーマです

1. このテーマを学ぶために

人間環境学部のテーマは「持続可能な社会の構築」ですが、「持続可能性（サステイナビリティ）」という言葉の意味を考えたことはありますか。また、環境や社会を考えるときに「多様性」という言葉も多く聞きますね。より良い<未来>を築くために必要なキーワードとして用いられる「持続可能性（サステイナビリティ）」という言葉ですが、その意味は様々で、文化の多様性に深く関わります。

「持続可能性（サステイナビリティ）」と聞いて、あなたどのようなイメージを思い浮かべますか。また、例えば、福島県の漁業者、鎌倉野菜の生産農家、温暖化の影響で「海に沈む」と言っている南太平洋の国ツバルの島民、JICA 海外青年協力隊員、ニューヨークのホームレス、スターバックスジャパンの CEO、マイクロソフト社のビル・ゲイツ、にとって持続可能性のイメージとはどのようなものでしょうか。往々にして異なるでしょう。それはなぜでしょう？また、こうした「差異」は、我々が「持続可能な社会の構築」を実現するために、どのような課題を投げかけるのでしょうか。

「持続可能性（サステイナビリティ）」を目指す活動は日本国内だけでなく、海外にも沢山ありますが、それらの事例はそれぞれ、誰が、誰（何）のために、どこで、どのような方法で実現しようとしているのでしょうか。また、それらの活動の「成功」または「失敗」というのは誰の視点で、どのように判断されているのでしょうか。在学中に、様々な角度から「持続可能性（サステイナビリティ）」を学び、卒業するまでにその意味について、自分なりの考えを述べができるようになります。それが、人間環境学部の卒業生としての自信と誇りに繋がると思います。

環境人類学 I, II, III を通して「持続可能性（サステイナビリティ）」と文化の多様性の関係について学びながら、興味のあるテーマに沿って様々な分野の科目を履修し、フィールド調査で実践を観察しましょう。以下は興味ごとのテーマと履修科目の例です。

A) 「持続可能な開発」や「持続可能な発展」について興味がある場合：

途上国経済論、国際経済協力論、社会開発論、NGO 活動論、国際関係論、科学技術社会論など

B) 「持続可能な資源利用」について興味がある場合：

地域コモンズ論、自然環境政策論、国際環境政策、国際環境法、国際関係論、食と農の環境学、環境経営論、環境ビジネス論、エネルギー論、エネルギー政策論、科学技術社会論など

C) 「持続可能なまちづくり」について興味がある場合：

地方自治論、地域形成論、自治体環境政策論、地域経済論、地域コモンズ論、NPO・ボランティア論、都市デザイン論、自然災害論、防災政策論、科学技術社会論など

2. テーマに関連した推奨科目

環境人類学 I, II, III に加え、興味のあるテーマごとに上記の科目例を参考に関連する理論や事例研究を学びましょう。また、フィールド調査を通して、「現場」を観察し、自分の考えを深めましょう。上記の科目以外にも、「持続可能性（サステイナビリティ）」の<意味>を考えるために必要な、人文科学的思考力も磨きましょう（例えば：文化人類学 I, II、日本環境史論 I, II、環境表象論、環境倫理学 I, II など）。